

プログラム

「
コンプレクス。
」

「コンプレクス。」目次

B.バルトーク：

ルーマニア民族舞曲

I. OJOC CU BĂTA

II. BRĂUL

III. PE LOC

IV. BUCIUMEANA

V. POAGRA ROMANEÂSCA

VI. MÂRUNTEL, 1. tema - MÂRUNTEL, 2. tema

S.プロコフィエフ：

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第1番 へ短調 作品80

1st movement : Andante assai

2nd movement : Allegro Brusco

3rd movement : Andante

4th movement : Allegrissimo

P A U S E

J.S.バッハ：

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ ト短調 BWV1001

Adagio

Fuga -Allegro

Siciliana

Presto

加藤綾子：

無伴奏ヴァイオリンによる即興演奏

序文——挨拶にかえて

音楽は良いものだと、きっと、誰もが思っていることでしょう。

ましてそれが、遠く海を隔てた向こうから、はるばるこんな島国まで届いている音楽であればなおさらです。当然それは「良いもの」に違いない。小学校の教科書にも載っている。好む好まないは別として、なんとなく「音楽は良いものだ」と、誰もが心のどこかで信じているのではないのでしょうか。

一方で、音楽家たち（あるいは、音楽を売る人々）の多くが、こんな嘆きを口にしています。——なぜ、俺のやっている音楽の素晴らしさが伝わらないのか。あの日あの場所で、自分が耳にした音楽の感動を、どうして理解してもらえないのか。音楽離れはどうして起きるのか。

音楽はこんなにも良いものなのに。人々の傷を癒し、人々に幸せを与えてくれるのに。

音楽に感動する人々が訴えれば訴えるほど、音楽に関心のない人々との隔たりは、悲しいくらい広がっていきました。

なぜなら、今を生きる大半の人々にとって、「良いもの」も「素晴らしいもの」も、音楽である必要はないからです。そもそも良いものが必要かどうかさえ、定かではないからです。歴史や、需要や、文化や、そんなものは関係なく、必要でないのです。

でも、いまだに芸術や音楽を語る上で、こういった素晴らしさの類は何よりも優先されているように思います。

素晴らしいものに触れろ。良いものだけを選んで、よくよく幸せになれ。

その呪いは、演奏者、創作者たちにも等しく降りかかります。音楽を無条件に良いもの・素晴らしいものと信じるのができない、そんな自分を恥じて、劣等感を抱く音楽家たち。あるいは、何百年と遠い国で愛されてきた音楽と向き合うより、今、目の前にあるしょうもない現実にはばかり苦しむ自分のつまらなさを痛感してしまう、通りすがりのだれか。

他でもないこの私自身、そんな劣等感の塊です。

でも、音楽は音楽を愛し、楽しめる人だけのものだと、誰が決めたのでしょうか。

傷口を塗りつぶすことだけが、本当の癒しになるのでしょうか。

他でもない音楽によって、傷つく人たちを見なかったことにできるだろうか。

この音楽が、もし、いついかなる時も正しく、素晴らしく、良いものでしかなかったのなら、きっと今日まで愛されてこなかったし、そもそもこの世に生まれることすらなかった。

音楽は、ちゃんと人を傷つけることだってできる。

今回のリサイタルは、こうして形を成しました。

最後までお聴きいただければ幸いです。

2019年1月25日 加藤綾子

「コンプレクス。」 曲目解説

B.バルトーク (1881-1945) : ルーマニア民族舞曲

Bela Bartok : Rumanian Folkdance

西洋の芸術界隈では、いわゆる「ナントカ風」音楽が流行っていた。トルコ風、ハンガリー風、ルーマニア風、黄金の國ジパング風。

しかし20世紀初頭、そんな音楽を切っ捨て、己が足で各地の民族音楽を集めていた男がいる。B.バルトーク、改めバルトーク・ペーラである。

ここに挙げた舞曲は、決してルーマニア「風」ではなく、文字通りルーマニア「の」舞曲だ。西洋的な洗練を施された、又聞き又聞きのような民族風音楽ではない。土と砂と血と肉と汗の匂いが漂う、素朴な農民たちの踊りである。ちなみに、ルーマニアと一口に言っても、トランシルヴァニア地方で採譜されたもの。バルトークが採譜に明け暮れていた頃、この地方はかろうじてまだオーストリア=ハンガリー帝国の領土だったが、その後紛争を経てルーマニア領土に帰属することとなる。

原曲はピアノ独奏版として、1914年に完成。その後、オーケストラ、ヴァイオリン向けに編曲されている。全曲通してattacca（曲間なく、続けて演奏せよとの指示）が記されているため、油断していると振り落とされて一瞬で終わる。下記をガイドに留意されたし。

I. OJOC CU BĂȚA

重く、引きずるような2拍子のダンス。ルーマニアや東欧の民族舞曲は男女複数のペアになって、応答するような形で踊ったり、

手拍子や声を掛け合ったりすることが多い。

II. BRĂUL

とても可愛い。一瞬で終わる。ちなみに、ハンガリーもルーマニアも、かつては神聖ローマ帝国の属州だった経緯があり、基本的にその単語はローマ字読みでOKのはずである。頑張ってみよう。

III. PE LOC

ヴァイオリンがヒーヒョロヒーヒョロ言い始めたならこの曲である。余談だが、お手元のスマートフォンでこの曲集のタイトルをYouTubeで検索してみると、なんだか陽気なおっちゃんとかおばちゃんが歌って踊る動画がしこたま現れる。

IV. BUCIUMEANA

農民の素朴な旋律を、無理やり西洋的な和声にはめ込む行為は愚かなことだ。むしろ、素朴な旋律だからこそ、可能な新しい響きが存在する——バルトークが、こと農民音楽を語る際に主張した理論がまさに形をなした。4分の3拍子、4小節のメロディが4つ登場し、それぞれ1回ずつ繰り返されるのだが、その都度鮮やかに和音に変化していく

V. POAGRA ROMANEÂSCA

字面からお察しの通り、「ルーマニア風ポルカ」の意。割と速い。

VI. MĂRUNTEL, 1. tema - MARUNTEL, 2. tema

とっても速い。

S.プロコフィエフ (1891-1953) : ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第1番へ短調作品80

СЕРГЕЙ СЕРГЕЕВИЧ ПРОКОФЬЕВ : Соната для скрипки и Фортепиано

ソヴィエト連邦という国が、国内の文化人・芸術家等に対して苛烈な粛清を行っていた事実は、いまや周知となりつつある。

もちろん、ここに挙げるセルゲイ・セルゲイエヴィチ・プロコフィエフも例外ではない。政府からも民衆からも、ひいては世界中から支持されていた作曲家の名声は、1948年の2月、政治的な批判によって奪われる。

その5年後、1953年3月5日。かつての妻を強制収容され、書き上げる作品も冷遇され続けていたプロコフィエフは、よりもよって、彼を弾圧してきた体制の頂点・スターリンと同じ日に亡くなる。享年62歳。数日後に行われた葬儀の列もまた、スターリンと同じ日、同じ街を歩むのだった。一つは大勢の群衆に囲まれ、もう一つは、小さな人々の小さな肩に担がれて。

音楽院在学時から賛否両論、注目の的だった若きプロコフィエフは、1918年、国内の混乱と前後するタイミングで出国した。しかし彼は、フランスやアメリカなど、西洋音楽の先進国を回る（道中、日本にも立ち寄る）も、最終的には、祖国に自分の音楽の居場所を求める。——これから帰る祖国が、一体どんな状況なのか理解できぬまま。

それは、帰国後も同じことだった。第二次世界大戦中には「大祖国戦争」の勝利を願う交響曲第5番で成功を収めるなど、多くの「社会的」成果も生んだプロコフィエフだったが、体制との齟齬はごまかせない。大戦勝利の陰にあった数多の犠牲、自身の病

状の悪化、戦勝国でありながら毫も変わらない粛清は、まぎれもない現実だった。

いつ、どこで、誰が、何を見ているかわからない世界。

終戦から1年後にして、ジダーノフ批判の2年前——1946年に完成されたこのへ短調のソナタに、喜びと栄光は墓標のように現れる。祖国に光を見出した作曲家は、遠くない未来、その祖国に裏切られることを予期していたのかもしれない。

第1楽章：Andante Assai

重く、沈痛なピアノの足取りが、このソナタ全体の行き先を示すよう。ヴァイオリンは言葉にならない旋律やピッツィカートを重ねながら、墓場に吹きすさぶ。

第2楽章：Allegro brusco

第1楽章とは打って変わって、単純な2分の2拍子で演奏される急楽章。中途、ヴァイオリンによって奏される凱旋のテーマには、「eroica」の文字が添えられている。

第3楽章：Andante

第2・4楽章のような強烈さはほとんどなく、奇妙で幻想的な安堵感がある。遠くでだれかが撃ち殺される音が聞こえても、それはきっと、自分には関係ない。

第4楽章：Allegroissimo

喜びに溢れていた音楽は、次第に様相を変えて行く。一瞬の油断も許されない緊張感がピアノとヴァイオリンの両者に満ち、再び墓場の風が荒れ狂うと、気が付いた時にはもう遅い。墓標の前にひとり立ち尽くして、かつての思い出をしのぶより他にないのだ。

「コンプレクス。」 曲目解説

J.S.バッハ (1685-1750) : 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第1番 ト短調 BWV1001

Johann Sebastian Bach : Sonaten für Solo Violine g-moll BWV 1001

世界中を巻き込む戦禍に翻弄された作曲家たちから遡ること200年。まだ、ドイツという国が寄せ集めの共同体で、三十年戦争の傷跡から立ち直りかけていた頃。

1685年3月21日、アイゼナハに、由緒正しい血を継ぐ赤ん坊が生まれた。その赤子は、1750年に生涯を閉じるまで、ついにドイツの外へ足を踏み出すことはなかった。

ヨハン・ゼバスティアン・バッハは、作曲において夥しい数の実験を行いながら、後継者たちの手本となる作品を次々と生み出した。それは、時として20人近くの子供たちと妻を養うためであり、家族や子弟に指導を行うためでもあり、そしてそれは、常に神との対話でもあった。

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータは、それぞれ3曲ずつ、ソナタ→パルティータの順で交互に配置される。本日のト短調はその曲集の最初に位置する。なお、バッハの次男坊の弟子の弟子のベートーヴェンの弟子のツェルニーの弟子の弟子の弟子がプロコフィエフである。

Adagio

バッハの音楽は、必ずしも堅牢ではない。むしろ彼の音楽は、神はもちろん、人の生死、情念について多くを語り、ここに細かく連なった音符はほとんど即興的ですからある。もし機会があったなら、ぜひ彼の自筆譜を見て欲しい。ざっくりしすぎて判別の難しい箇所も見られるけれど、楽譜というより一つの文様、刺繍にすら見える。

Fuga -Allegro

「Fuga」(フーガ)とは、ものすごく簡単にいえば、一つの旋律をあの手この手でこねくり回す作曲法のこと。結果、その曲はいくつもの人間が応唱し、せめぎ合うような様相を見せる。それをせいぜい弦4本しか持たないヴァイオリン1挺にやらせるということは、つまり、そういうことである。

Siciliana

唯一、このソナタで挟み込まれた長調(明るい調性)の楽曲であり、舞曲でもある。名前から察せる通り、イタリアはシチリア地方で生まれた舞曲である。ある地域の舞曲を取り込む———というバルトークを思い出すかもしれないが、これは当時の楽曲様式のようなもので、また、音楽や美術、文化的な中心地が実はイタリアだったことを考えると、まったく意図が変わってくる。

Presto

8分の3拍子。16分音符で転がり続けていく終楽章。めまぐるしい展開の中、一切の無駄なく様々な色に変化し、最後はしかるべき時にしかるべき幕を下ろす。

加藤綾子：無伴奏ヴァイオリンによる即興演奏

Ayako Kato : Improvisation

コンプレクス。

「コンプレクス。」出演者プロフィール

加藤綾子

Ayako Kato

1993年4月21日生。生まれた当時は2000g足らず、透明なケースの中で全身に貼り付けられたケーブルをむっしむっしと剥ぎ取っていたという。「お箸が乗りそうね」と言われるほど見事だった睫毛はしかし、今となっては厚い一重まぶたの奥に隠れている。
WEB ayako-kato.com

Twitter @akvnimp

洗足学園音楽大学音楽学部弦楽器コース、および同大学院器楽研究科弦楽器コースをそれぞれ首席で卒業（修了）。同大学院グランプリ特別演奏会にて最優秀グランプリ及び審査員特別賞を受賞し、賜った奨学金を順調に健康的にすり減らしている。市川市文化振興財団 即興オーディションにて優秀賞を受賞。第28回日本クラシック音楽コンクール室内楽部門第5位入賞。

ヴァイオリンを有馬玲子、佐近協子、瀬戸瑠子、沼田園子、安永徹、川田知子の各氏に、室内楽を沼田園子、安永徹、須田祥子の各氏に師事。

田中麻紀

Maki Tanaka

付属高校を経て、東京芸術大学卒業。ドイツ、シュトゥットガルト音楽大学大学院卒業。PTNAペティションDUO部門（2台ピアノ）最優秀賞受賞。シュポア国際ヴァイオリンコンクールに於いて、カリンエルスナー賞（最優秀伴奏賞）受賞。川崎音楽コンクールに於いてベヒシュタイン賞（最優秀伴奏賞）受賞。第4回日本室内楽コンクール第1位、併せて東京都知事賞受賞。

特にアンサンブルピアニストとして定評があり音楽祭への参加やコンクールの公式伴奏、CDやFMの録音など幅広く活躍。また、海外からのアーティストとの協演も多く高評を博している。

All written by Ayako Kato

加藤綾子のこれから。

2019年2月15日（金） 19:30開演

即興演奏セッション

白石義愛×加藤綾子

於 King's Bar Vignette

第1回市川市文化振興財団即興オーディションにて優秀賞受賞の二人で、
即興演奏の真髄に迫るかもしれない。
セッションなので楽器さえお持ちいただければ一緒に楽しめます。

2019年3月9日（土） 14:00開演

檜村理沙×加藤綾子 デュオ・リサイタル

R.シュトラウス ヴァイオリンとピアノのためのソナタ

L.v.ベートーヴェン ピアノとヴァイオリンのためのソナタ イ短調 作品 他

於 美竹清花さろん

大学在学中にデュオを組んだ同士。
東の方ばかりだとねえちょっと胃もたれしちゃうワ、というあなたのランチにオススメ。

公演予約・お問い合わせは下記QRコードから。

